

# ダイ ガク 走る

学生、教員地域と共に

九州工業大大学院情報工学研究科（飯塚市）の中荻隆准教授（41）が指導する研究プロジェクト「YOKABIO（ヨカバイオ）」が、10月末に米国で開かれた生体分子を専攻する学生の国際研究発表会「BIOMOD（バイオモッド）」の研究部門で24校中2位に輝いた。中荻准教授と学生9人は「思ってもみなかった結果で驚いた」と振り返る。

発表したのは「分子ロボティクス」と呼ばれる分野。従来のもの作りが材料を加工するのに対し、分子ロボティクスは特定の情報を組み込んだDNAによって、そのDNAを持つ物質を細胞のように特定の物体に変化させることを目指す。極小になるようDNAを操作することで現在は難しいナノメートル（ナノは10億分の1）単位の物体の作製も可能と

## 国際研究発表で2位 九工大

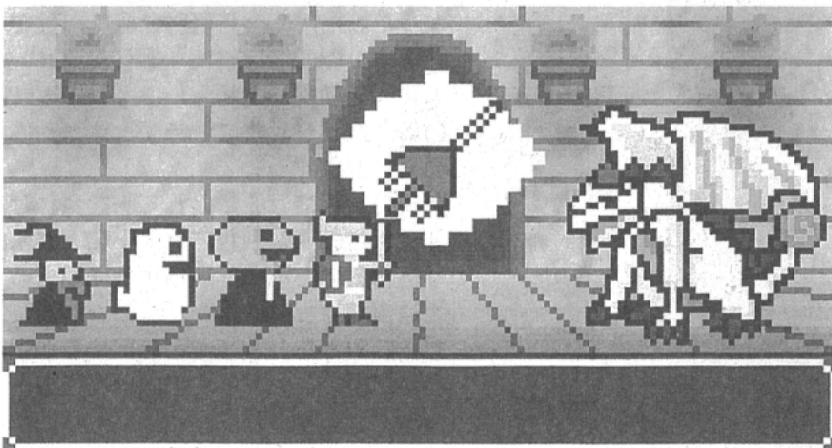
# DNA操作しもの作り

考えられており、医療などで実用化が期待されている。

「BIOMOD」は米数化（100点満点）し、国の名門・ハーバード大総合成績と部門別に表彰に在籍した研究者が企画する。米国やドイツ、オーストラリアの大学に加入する競争型の発表会で6回目。ホームページにまとめられた研究内容の評価を中心に、動画で分かりやすく伝えること、当日の発表態度の計3項目を点「YOKABIO」は、東大、東北大など計5校が参加した。分子ロボティクスのうち、DNAを思いのままコントロールする研究や素早く変化させる理論を中心にまとめた。4月からリーダーの西島勝浩さん（23）を中心に修士課程1年の3人が指導し、学部生6人が作業。全員が



中荻准教授（下段右端）と学生たち。上段右から3人目の学生が手にするものが研究部門2位の賞状



田中さんが担当した動画の一場面。10月末の発表に合わせてハロウィーンをモチーフにした

自身の研究や講義と並行して英語で発表用のホームページや動画製作を進めた。動画は「最新の研究を社会に理解してもらうため必要なスキル（中荻准教授）として重視されているという。

動画を担当した4年生の田中雄己さん（21）は「口で説明しにくいことを分かりやすく、かつインパクトのある物語に仕上げようと努力した」と話した。リーダーの西島さんは「プロジェクト全体を把握してまとめるのは大変だったが、海外の大学と競争するのはやりがいがあった。後輩には更に上を目指してほしい」と語った。

【奥田伸一】